

ハナノキ	<i>Acer pycnanthum</i> K.Koch	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		カエデ科
選定理由	生育地が局限されているうえ、個体数が減少している。	写真(高橋弘)
形態の特徴	葉は普通浅く3裂するが、切れ込みのないものもある。先は鋭く尖り、縁に重鋸歯がある。雌雄異株。葉が展開する前に開花し、鮮紅色の花を前年枝の葉腋に束生する。雄花の花柄は短く、黒紫色の葯を長い花糸の先につける。雌花の花柄は長く、花序は垂れ下がる。果実は直角から鋭角に開く。	
生態的特徴	低湿地の周辺に生育する。花期は3月下旬から4月中旬。	
分布状況	日本固有で、長野・岐阜・愛知県に限られる。岐阜県では県南の中部と東部の標高500m前後に生育する。	
減少要因	湿地の開発による。	
保全対策	湿地の保全。	
特記事項	自生地の近辺に植栽されているアメリカハナノキとの交雑も心配される。	
参考文献		

文責:高橋弘